

# 社会資本総合整備計画（第2回変更）

## 竜北地区都市再生整備計画

令和3年1月25日

長野県伊那市

社会資本総合整備計画

令和3年1月25日

計画の名称	竜北地区都市再生整備計画										重点配分対象の該当						
計画の期間	令和1年度～令和3年度（3年間）										交付対象	長野県伊那市					
計画の目標	活力と交流のある暮らしやすいまちづくり ・交流のひろがりともちなか居住の促進 ・安心して歩ける歩行環境の整備と中心市街地のにぎわいの創出																
計画の成果目標（定量的指標）	・竜北地区に居住する人口比率を2.10%（H30）から2.12%（R4）に増加させる。 ・勤労4施設（勤労者福祉センター、勤労青少年ホーム、サンライフ伊那、女性プラザ伊那）の閉鎖に伴う新たな交流拠点施設として、（仮称）竜北地域交流センターの1年間の利用者数を23,460人/年（H27）から28,300人/年（R4）に増加させる。 ・市街地循環バスの1年間の利用者数を57,084人/年（H29）から57,673人/年（R4）に増加させる。																
定量的指標の定義及び算定式											定量的指標の現況値及び目標値		備考				
	住民基本台帳において各年4月1日時点の竜北地区居住人口が全市人口に占める割合を算出する。										当初現況値 (R1当初)	中間目標値 (R2末)	最終目標値 (R3末)				
	(仮称) 竜北地域交流センターの1年間の利用者数を集計する。 ※当初現況値は、平成27年度における勤労4施設（勤労者福祉センター、勤労青少年ホーム、サンライフ伊那、女性プラザ伊那）の利用者数										23,460人/年	27,700人/年	28,300人/年				
	市街地循環バス（内回り・外回り）の1年間の利用者数を集計する。										57,084人/年	57,144人/年	57,673人/年				
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	393.2 百万円	A	393.2 百万円	B	0.0 百万円	C	0 百万円	D	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0%					
交付対象事業																	
A 基幹事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考	
1-A-1	都市再生	一般	伊那市	直接	伊那市	竜北地区都市再生整備計画事業	道路、高次都市施設 51ha	伊那市	R1	R2	R3			393.2			
合計													393.2				
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考	
合計																	
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考					
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考			
合計																	
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考					
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）				全体事業費 (百万円)	備考			
合計																	
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考					

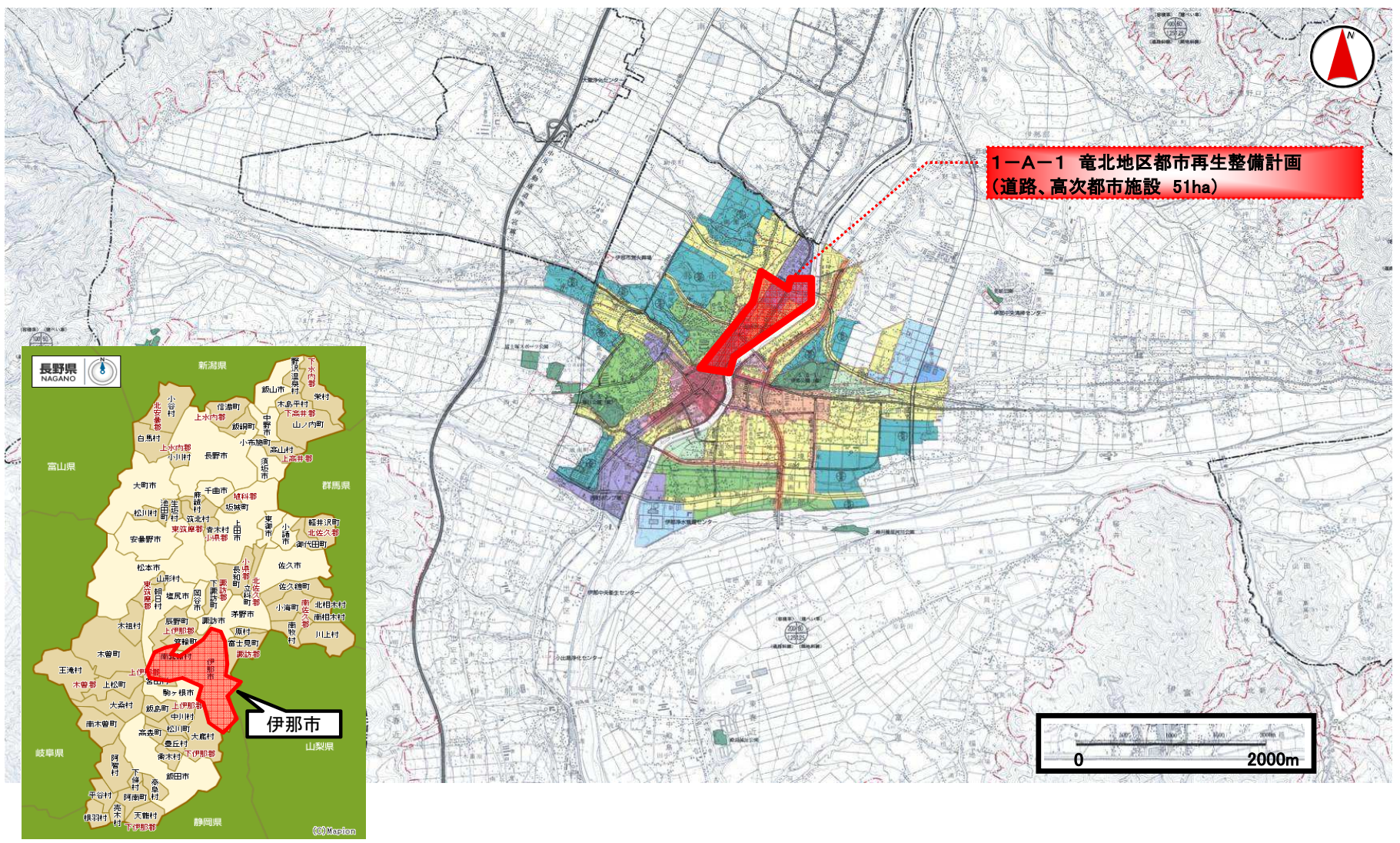
交付金の執行状況

(単位:百万円)

	R1	R2	R3		
配分額 (a)	1.0	88.3			
計画別流用 増△減額 (b)					
交付額 (c=a+b)	1.0	88.3			
前年度からの繰越額 (d)					
支払済額 (e)	1.0	88.3			
翌年度繰越額 (f)					
うち未契約繰越額 (g)					
不用額 (h = c+d-e-f)	0.0	0.0	0.0	0.0	
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	0.0%	0.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由					

参考図面 (社会資本整備総合交付金)

計画の名称	A-1 竜北地区都市再生整備計画	交付対象	長野県伊那市
計画の期間	令和1年度 ~ 令和3年度 (3年間)		



# 社会資本総合整備計画の添付書類等

## 交付対象事業別概要

りゅうほく  
竜北地区都市再生整備計画 ながの いな  
（長野県伊那市）

(参考)年次計画

(事業費:百万円)

基幹事業								
事業名	事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和1年度	令和2年度	令和3年度		
都市再生整備計画事業	竜北地区都市再生整備計画事業	伊那市	393.2	2.5	362.4	28.3		
			0.0					
			0.0					
			0.0					
			0.0					
計			393.2	2.5	362.4	28.3	0.0	0.0
関連社会資本整備事業								
事業名	事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和1年度	令和2年度	令和3年度		
			0.0					
			0.0					
			0.0					
			0.0					
			0.0					
計			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
効果促進事業								
事業名	事業箇所名	事業主体	交付対象 事業費	令和1年度	令和2年度	令和3年度		
			0.0					
			0.0					
			0.0					
			0.0					
			0.0					
計			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計			393.2	2.5	362.4	28.3	0.0	0.0
累計進捗率 (%)				0.6%	92.8%	100.0%	100.0%	100.0%

# 都市再生整備計画(第2回変更)

りゅうほく  
竜北地区

ながの いなし  
長野県 伊那市

令和3年1月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

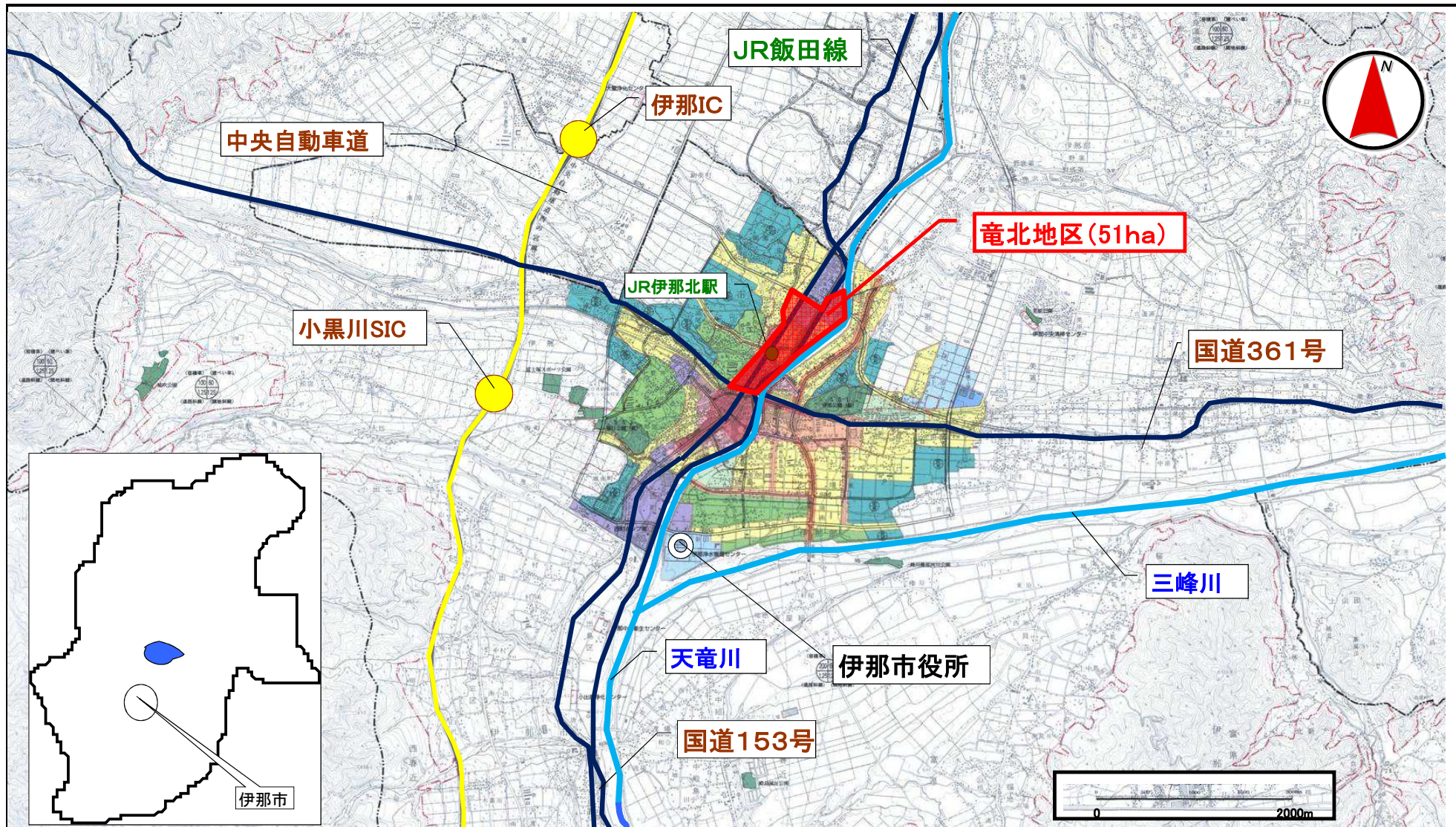




計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【交流のひろがりとまちなか居住の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人が集まる機会を創出し、多様な世代による新たな交流を生み出すため、福祉まちづくりセンターと保健センターを合築して、新たな交流拠点を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高次都市施設：(仮称)竜北地域交流センター(基幹事業)</li> <li>・福祉総合窓口整備(関連事業)</li> <li>・優良建築物等整備(関連事業)</li> </ul>
<p>【安心して歩ける歩行環境の整備と中心市街地のにぎわいの創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道駅、商店街、交流拠点を結ぶ歩行者動線を確保するとともに、高齢者や障害者などが安心して歩ける歩行環境を整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路事業：市道三条線(基幹事業)</li> </ul>
その他	

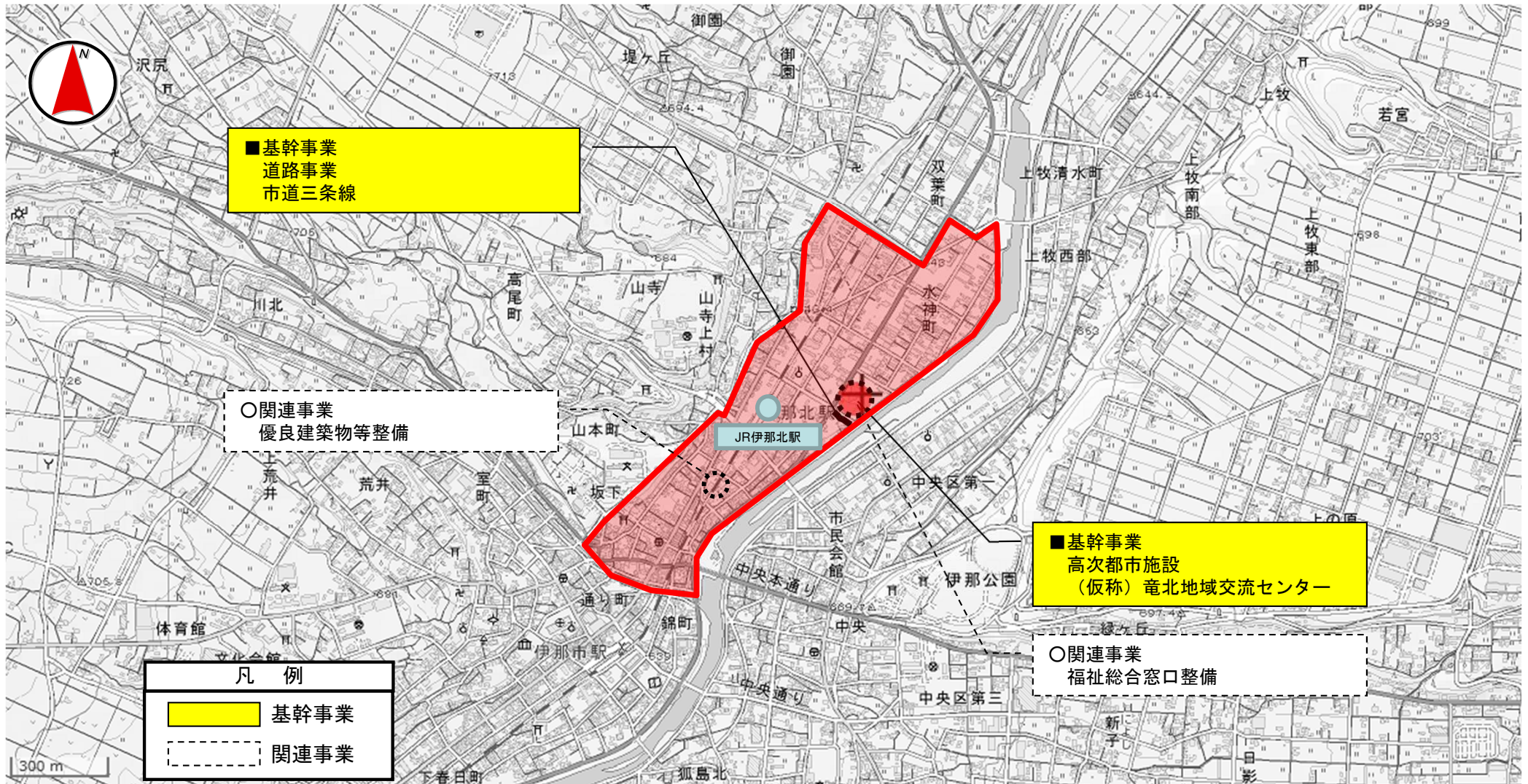


竜北地区(長野県伊那市)	面積	51 ha	区域	伊那市山寺、坂下の一部
--------------	----	-------	----	-------------



竜北地区(長野県伊那市) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)

目標	活力と交流のある暮らしやすいまちづくり ・交流のひろがりともちなか居住の促進 ・安心して歩ける歩行環境の整備と中心市街地のにぎわいの創出	代表的な	竜北地区に居住する人口比率 ( % )	2.10 (H30年度) →	2.12 (R3年度)
		指標	(仮称)竜北地域交流センターの利用者数 (人)	23,460 (H27年度) →	28,300 (R3年度)
			市街地循環バスの利用者数 (人)	57,084 (H29年度) →	57,673 (R3年度)



## 事前評価チェックシート

計画の名称： 竜北地区都市再生整備計画

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 都市再生基本方針との適合等 1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
I. 目標の妥当性 都市再生基本方針との適合等 2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性 地元の熱意 1) まちづくりに向けた機運がある。	○
III. 計画の実現可能性 地元の熱意 2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
III. 計画の実現可能性 地元の熱意 3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○

